株式会社フコク　2027 年 3 月期第 2 四半期 決算説明会 質疑応答要旨

株式会社フコク

Q. 期初予想で不確実リスクとして織り込んだ前年同期比マイナス 13 億円を、マイナス 10 億円へ見直しをされたが、根拠となった第 2 四半期の状況、下期足元の状況など、10 億円の内訳を含め教えて欲しい。

- 中東情勢の影響は、期初予想では年間マイナス 13 億円を見込んでいた。売上高の減少に伴う操業度の低下が 9 億円、原材料費の上昇は 4 億円。
- 第 1 四半期時点では利益低下要因はあまり表れず、一部地域では駆け込み需要で売上が増加した。第 2 四半期も影響は緩やかで上期累計マイナス 3 億円の影響に留まった。
- 第 3 四半期以降は影響が顕著となり、特に原材料費やエネルギー費などの上昇が足元で強まっているが、売価反映の効果が第 3 四半期以降に表れると見込んでいるものの、海外拠点におけるコストアップ要因が想定よりも大きく、また中東情勢の不透明感が残っていることも勘案し下期累計マイナス 7 億円と見込んでいる。
- 通期では影響の総額は当初予想より 3 億円プラス方向に修正し、マイナス 10 億円と見ている。

Q. 価格転嫁についての状況と今後の見通し。赤字不採算製品の削減の進捗について。

- 価格転嫁については原材料、労務費、エネルギーが高騰しているが、お客様と一定の基準を設けて価格転嫁の申請をしている。
- 赤字不採算製品については、お客様にご理解いただくことが難しい部分もあるが、原価低減努力と合わせてエビデンスを示してご理解頂けるよう交渉を進めている状況。

Q. 中国において日系乗用車メーカーが販売台数を落としているが、その影響と拡販について。

- 重要保安部品であるブレーキやブーツを扱っているため影響は大きい。
- 一方、拡販については、中資系カーメーカーに当社のワイパーや防振系の建設機械用ビスカスマウントは十分に認めていただいており、売り込めていることで堅調に推移している。

Q. アセアン・インド地域で為替の影響を受けたとの説明があったが、第 2 四半期における為替の影響はどれほどだったのでしょうか。今後の事業の見通しを含め説明してほしい。

- 2026 年度第 2 四半期実績は 1 ドル 158 円。前年同期比では 9 円程度円安が進行。
- 1 円円安に対する感応度は 1 億円～2 億円程度の売上増効果。
- 第 2 四半期の売上における為替影響はプラス 15 億円程度。

以上